

2006 2007  
Gifu North R.C.



# 岐阜北週報

WEEKLY REPORT

1205

例会 毎週水曜日 題字 小森 保敏  
会場 岐阜都ホテル 岐阜市長良福光桃林 2695  
tel 295-5222(代)  
事務所 岐阜商工会議所(岐阜市神田町2) tel 264-9235(代)

会長 小森 保敏  
副会長 岡田 忍  
幹事 永瀬 章  
会報記念誌委員長 谷田 育子

<http://gifukita-rc.com>



平成 19 年 4 月 25 日 発行

4 月 ローターリー雑誌 月間

## 本日のプログラム

第 1206 回例会 4 月 25 日(水)

卓話

担当: 竹村会員・相宮会員

第 1205 回例会 4 月 18 日(水)

クラブアッセンブリー(6)

地区協報告 100 万 \$

担当: 会長エレクト・次期幹事

- 点鐘
- 国家「君が代」斉唱
- ローターリーソング「それでこそロータリー」
- 四つのテストの唱和

## ビジター紹介 親睦交流委員会

・岐阜中 R. C. . . . 岐阜 A 分区ガバナー補佐  
野々村 雅章 様

## 会長挨拶 小森 保敏 会長

一言ご挨拶申し上げます。本日は、牛乳について話したいと思います。日本人のカルシウム不足は、骨粗しょう症の原因になっているといわれています。カルシウム含有量の多い食品としては牛乳、しらすぼし、さくらえび、まいわし、干しひじき、こまつななどが挙げられるが、これらの中で、もっとも摂取しやすいのは牛乳である。

日本人一人一日あたりのカルシウム摂取目標量は、成人男性の場合 600 ~ 650 ミリグラム、成人女性の場合は 600 ミリグラムといわれていますが、目標量より 15% ほど不足している。牛乳コップ一杯 200 ミリリットル当たりのカルシウム含有量は 230 ミリグラムだから、一日目標量の約三分の一がとれる。

牛乳のカルシウム吸収率が高い理由としては、牛乳のたんぱく質カゼインが消化されてできる CPP (カゼインホスホペプチド) と、牛乳に含まれる炭水化物乳糖がカルシウムの吸収率を高めるからである。また、CPP と乳糖は鉄や亜鉛などのミネラルの吸収も助けるといわれている。牛乳は安くて、おいしくて、調理しなくてもとれる素晴らしいカルシウム補給源であるということをご紹介申し上げまして挨拶といたします。ありがとうございました。

## 出席報告 出席委員会

本日のホームクラブ	32 / 35	91.43%
-----------	---------	--------

本日のホームクラブ欠席者 3 名

北川忠雄君・小島正三司君・原尾勝君

## 委員会報告

ニコニコボックス

\* ガバナー補佐野々村雅章様... 本年度も残り 2 ヶ月余りとなりました。最終訪問で参りました。大変お世話になりありがとうございました。

\* 山口八郎君... 地区協報告よろしく。

地区協議会報告

次期青少年育成委員長 笠井 琢哉

2007 年 4 月 14 日に、ホテル花水木にて開催された地区協議会について、ご報告します。今年は桑名 R C がホストを努められました。田中稔子ガバナーエレクトの点鐘に始まり、篠田ガバナーや伊達次期地区研修リーダーの挨拶がありました。

その後、ガバナーエレクトから、次期 R I テーマ及び次期ガバナー方針が発表されました。会場は割り静かで、正面スクリーンに映し出される、次期 R I 会長のスピーチなどをガバナーエレクトの解説で聞いていました。ただ、スクリーンの映像は英語だったので、アメリカ・ノートルダム大学出身の田中稔子ガバナーエレクトのような語学力のない私には話の内容は分からず、そのスピーチを基に解説されるガバナーの話も残念ながら殆ど理解できませんでした、とても長い 1 時間でした。用意配布された資料によると、次期 R I テーマは「ロータリーは分かちあいの心」とのことです。

ロータリアンの一人一人の時間と、才能、専門知識、資金を分かちあうことをテーマとされているようです。そして、第 2630 地区「地区達成目標」として 5 つが掲げられています。

(1) 全クラブ(80 クラブ)がクラブ会員数純増 1 名以上に

(2) 「ロータリー家族委員会」「新世代委員会」「青少年育成委員会」と連携

プロジェクトを通してフューチャー・ロータリアンの発掘と養成

- (3) ロータリー・カードを地区内会員80%以上が所有する。
- (4) ロータリー・バンド(和洋楽器演奏・ポーカー)の結成をする。
- (5) 全クラブ(80クラブ)がR.I.会長賞ガバナー賞を目指す。

又、「地区運営方針」が3つの示されています。

- (1) ガバナー補佐に地区運営の潤滑剤としての役割を期待する。
- (2) ガバナー補佐はクラブ訪問を通じて、各クラブの現状と問題を掘り起こし及び上記の目標達成のためのPRを兼ねて援助をする。
- (3) 地区委員長、委員は活動や情報の共有化を図り、対地区社会、对各クラブのロータリアンの情報発信をする。

私は来期、青少年育成委員をさせていただくことになっておりますが、今年は、分科会が行われなかったため、地区の次年度活動方針は、先ほどに資料より発表します。故金委員長の次年度活動方針は、

- (1) スローガン「わかちあいの心」青少年に愛を!
- (2) 活動計画
  - 企業への職場体験の受け入れ
  - 職場体験で仕事の楽しさを学んでもらおう。
  - 学校への講師派遣
  - 得意な分野でプロフェッショナルの喜びを伝える。
  - 街頭で、町内で子供達に挨拶の声をかけよう。

又、地区委員会の活動計画として

- (1) 派遣、職場体験の登録名簿の更新。
- (2) 80クラブへの活動方針の伝達と協力。
- (3) 活動方針における成果のまとめと発表。
- (4) 年間4回(7月、10月、2月、5月)の地区委員会の打合わせ。
- (5) ガバナー補佐への活動協力の要請。
- (6) 委員長セミナーの開催の計画、準備
  - (2007年7月~10月頃)の6つが示されました。当クラブとしてもこの方針に則った活動をしていこうと考えていますので、皆様のご協力を宜しくお願いします。

青少年交換委員会 岡田 一二三  
笠井さんが地区協議会の報告は細かく役明されましたので、私は国際青少年交換スケジュールを報告します。

- <7月15日(日)>
  - ・春期派遣希望学生選考試験
  - ・第2回夏期派遣学生オリエンテーション
  - ・第1回地区委員会
- <7月25日(水)>
  - ・第2回地区委員会：合否判定会議
- <8月19日(日)>
  - ・第1回春期派遣内定学生オリエンテーション
  - ・第1回夏期来日学生オリエンテーション
  - ・第3回地区委員会
- <8月27日(月)~29日(水)>
  - ・受入学生夏期研修旅行
- <9月>
  - ・交換学生とロータリアンの交流会
- <12月>
  - ・春期受入学生修了証書授与式
- <1月20日(日)>
  - ・第2回春期派遣学生オリエンテーション
  - ・第4回地区委員会
- <2月10日(日)>
  - ・夏期派遣希望学生選考試験
  - ・第5回地区委員会
- <2月21日(木)>
  - ・第6回地区委員会：合否判定会議
- <4月>
  - ・第7回地区委員会
- <6月>
  - ・第8回地区委員会：新旧交代
  - ・夏期受入学生修了証書授与式

次期国際奉仕委員長 谷田 育子

2007年地区協議会に於いて

これは、私の主観的な考え方なのかも知りませんが、感じた事をお話させていただきます。

14:30~の特別講演会で、“Rotary.Shares”あれこれと題して、R.I.理事の渡辺好政様が約2時間程話されました。

これは、Rotaryの精神をあらゆる事例や標語を示しながら、どうあるべきか…どうしなければいけないのか…

など Rotaryan としての姿勢を話されたもので非常に素晴らしいと思い聞いていましたが、ロータリーが誕生して100年が経った今日の時代に、このロータリー精神が、社会の受皿の中で、どれだけ現実に、人々の胸の中にしみ込む程の崇高な働きをしているものであるか考えさせられる所がありました。

非常にドライな考え方、自己中心的な考え方が、あたり前の様にして、私達の生活や日常の中に、ある時に、これだけの精神論を、どの様にして、ロータリアンは、自身の生活の中で実行出来るのか・・・

そして、自身の生活をこの精神論を基に切り換える事が出来るのか・・・ 疑問に感ずる所でした。

そして、この精神論実現のためには、(あまりにも100年経った現実)そのものは、ギャップが大きいと、ため息が出る思いでした。

それでも、講演の中で言われた言葉に非常に胸を打たれた言葉がありましたので、それを紹介して私の報告とさせていただきます。

教える事は、相手に希望を持たせる事であり学ぶ事は、真実を胸に刻む事である。

次期会長 山口 八郎

(1)平成19年4月14日(土)

三重長島温泉ホテル「花水木」  
担当クラブ桑名西RC

岐阜北RC 17名中15名参加し、今回は各委員会ごとの分科会は実施されず、合同会議にて行われた(理由としては渡辺RI理事の特別講演があったためとの説明があり)。

(2)次期RI会長 ウィルフリッド・ウィルキンソン・カナダ・オンタリオ州トレントン テーマは「分かちあいの心」であります。

その主旨として、

世界120万人全員間に共存する一本の強力な糸が存在するのであれば、それは「分かちあい」という名の精神でできた糸です。

これまで以上にロータリーと個人的にかかわり、奉仕プロジェクトを全員増強の両面から積極的に参加する。

「ロータリー家族」即ちロータリーは家族だけでなく、ロータリアクター、インターアクター、青少年交換学生、ロータリアンの遺族の方々を、そして、ロータリーの目標と理念の推進に向けて私たちと協同で活動して下さる方々の皆様です。

継続性はロータリーの成功に欠かせない要素ですから、保健、識字率向上、水保全が引き続き次年度の奉仕の焦点となります。

国際ミレニアム開発目標、特にサハラ砂漠以南のアフリカ諸国の「ミレニアム・ビレッジ」プロジェクトへの参加です。極貧状態にある地域社会が自助自立を目指すのを支援する。

テーマには二つの意味があり、その一つはロータリーを分かちあうこと、もう一つは、私たち皆がロータリーを分かちあうことです。全てのロータリアンが新会員を連れてくる責務を分かち合わなければならない。

全ロータリアンに少なくとも1名の新会員を入会させていただく。また新会員をもたらした、すべてのロータリアンに対し、表彰する計画も準備した。

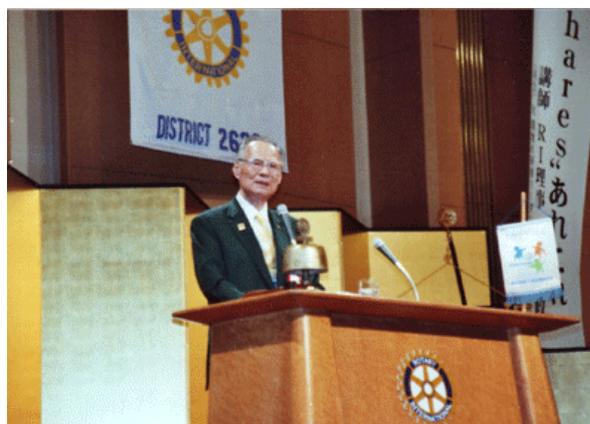
(3)2630地区「地区達成目標」は次の通り  
全クラブ(80クラブ)がクラブ会員数純増1名以上

「ロータリー家族委員会」「新世代委員会」「青少年育成委員会」と連携

ロータリーカードを地区内全員80%以上が所有する。

ロータリーバンドを結成する。

全クラブ(80クラブ)がRI会長賞、ガバナー賞を目指す。



➤ 閉会の辞 岡田 忍 副会長

➤ 点 鐘

次回例会のご案内 5月9日(水)

- ・ 慶祝行事
- ・ クラブフォーラム(11)

担当 25周年実行委員会

担当/クラブ会報委員会 谷田 育子